

平成 31 年度 東京都立文京高等学校 学校経営報告

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

ア 学習指導

- ① 学力スタンダードに基づく教科の到達目標を明確にし、教科内及び教科間の連携を深め、授業内容や方法の工夫・改善、授業時数の確保や家庭学習の促進、教材・定期考査問題の共通化、ICT機器の活用やアクティブラーニングによる主体的学習の推進、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上に向けた取組など、学力向上を目指す学習指導の充実を図った。
- ② 土曜授業、習熟度別授業（数学、英語）、進学対策の選択科目、国公立大学進学対応クラスの設置など、生徒の理解度や目的に応じた指導を行い、学力向上に向けた学習指導の充実を図った。
- ③ 数値目標である、自主学習室平均利用人数（1日当たり）は15.5人（昨年度15.9人）、大学入試センター試験得点率70%以上の人数は122人（昨年度141人）と、昨年度を下回り目標値を達成することができなかった。長期休業中の講習講座延べ日数は188日と、目標値である200日以上（新規設定数値目標）を達成することはできなかったが、放課後等の授業時間以外での個別指導や補習、質問への対応など、生徒一人一人に応じた学力向上に向けた指導に取り組んだ。

イ 進路指導

- ① キャリア教育の全体計画に基づき、進路部と学年が連携し、将来設計に基づいた計画的・組織的な進路指導を行った。進路ガイダンス、大学入試説明会、国公立大学説明会、大学出張講義、キャンパスツアー（首都大学及び早稲田大学）、社会人講演会、生徒及び保護者を対象にした新大学入試説明会などの進路行事の実施や、早い段階から進路意識を高めるホームルーム活動での指導などにより、キャリア教育の充実を図った。
- ② 東京都教育委員会からの進学指導研究校の指定を受け、教科指導及び進学指導の実践力を高めるとともに、模試分析会を実施し、確実な学力の向上と目標大学合格に向けた進路指導の取組を、学校全体が一体となり組織的に行えるよう進めた。
- ③ 最後まで第一志望を目指させる指導はできたが、数値目標である、国公立大学合格者数は16人（昨年度26人）、難関私立大学（早慶上理、GMARCH）合格者数は106人（昨年度128人）と、難関上位校への合格者数は昨年度を下回った。昨年度の卒業生ではあるが東京大学への合格者が1名出た。

ウ 生活指導

- ① 「規律ある自由」の精神を正しく理解させ、学校生活のあらゆる場や機会において、規範意識を高め、自分で判断し決定し実行する自己指導能力を高める指導を行った。遅刻防止指導や頭髪・服装等の身だしなみ指導を行うとともに、集団生活におけるルール、マナー、モラルを身に付けさせ、自律的な生活態度とお互いを尊重する態度の育成を図った。
- ② 体罰根絶、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組むなど、人権尊重の教育を推進した。
- ③ 未然防止や予防的指導の観点で、セーフティ教室、薬物乱用防止教室、SNS利用に関する指導、自転車安全指導、通学マナーの徹底、貴重品の管理など、問題行動防止や犯罪被害防止などの指導を充実させた。

エ 特別活動・部活動

- ① 生徒自治会の活動を支援し、体育祭や文化祭等の学校行事を充実させ、集団や社会の一員としての自覚と行動力、社会の発展に貢献しようとする自主的・実践的な態度を育成するよう努めた。
- ② 本校が目指す「文武両道」の精神のもと、部活動加入率 101%（昨年度 100%）を達成し、部活動の活性化や競技力の向上を図るとともに、成就感や自己肯定感を高める指導を行った。東京都教育委員会からの「スポーツ特別強化校（陸上競技）」の指定や、部活動指導員の導入などにより、質の高い活動を行った。
- ③ 新規に数値目標として掲げた、関東大会レベル以上出場部活動 5 部以上の目標値を達成することができた。なかでも、陸上競技男子八種競技で全国高校総体第 2 位の結果を残し、部活動に取り組む他の生徒にとっても大きな励みになった。

オ 健康・安全

- ① 新型インフルエンザ及び新型コロナウイルスなどの感染症対策への対応など、全教職員が情報を共有し、体制を整えた。
- ② 教育相談委員会を新設し、年間 4 回の委員会での情報共有を行い、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実を図り、学校不適應の未然防止や自殺予防に向けた取組の充実を図った。
- ③ 防災教育推進委員会を年間 3 回開催し、宿泊防災訓練を含む避難訓練を年間 4 回実施するとともに、災害に対する自助の力と共助の精神を育むための体験的・実践的な防災教育を進めた

カ 募集・広報活動

- ① 学校説明会、学校見学会、授業公開、部活動体験入部、外部での学校説明会などに積極的に参加し、全教員が協力して募集活動を行った。しかし、校内で行った学校説明会の来場者数（1 回あたり）は 798 人（昨年度 1,000 人）と昨年を下回った。
- ② ホームページの更新を迅速かつ定期的に行い、ツイッターも再開させ、年間 120 回（昨年度 80 回）の更新を行い、外部に積極的に情報発信をした。
- ③ 入学者選抜の応募倍率は、推薦に基づく選抜では 3.06 倍（昨年度 3.23 倍）、学力検査に基づく選抜では 1.53 倍（昨年度 1.69 倍）と、推薦は 4 年連続、学力検査は 3 年連続で前年度を下回った。

キ 学校経営・組織体制

- ① 企画調整会議を中心とした学校経営を行い、管理運営規程に基づく学校運営を徹底し、組織的な業務遂行と学校運営を進め、諸課題の解決に向け組織的に取り組んだ。
- ② 経営企画室との連絡・調整・連携を強化し、迅速かつ効率的な業務を遂行し、事業の充実と推進に取り組んだ。
- ③ 令和 2 年 10 月 31 日に開催が決定した創立 80 周年記念事業に向け、PTA 及び同窓会とも連携し計画的に準備を進めた。

(2) 重点目標への取組と自己評価

- ① **【学習指導】** 土曜授業、習熟度別授業（数学、英語）、進学対策の選択科目、国公立大学進学対応クラスの設置など、生徒の理解度や目的に応じた教育課程を編成し、進学校として進学に向けた学力向上を図る指導を充実させた。授業においては、授業時数を確保し、新学習指導要領や大学入学共通テストに対応した授業内容や授業方法を工夫し、生徒の理

解度や目的に応じた指導の充実を図り、主体的学習を推進した。授業時間以外においても、長期休業中の講習（講座延べ日数 188 日）、自主学習室の活用（1 日当たり平均利用人数 15.5 人）、定期考査前の放課後の教室開放、放課後等を利用した補習・講習や質問への対応などにより、一人一人に応じた指導を充実させた。大学入試センター試験得点率 70%以上の人数を数値目標としたが、122 人（昨年度 141 人）と昨年度を下回り目標値を達成することができなかった。

- ②【進路指導】東京都教育委員会からの進学指導研究校指定 2 年目として、教科指導及び進学指導の実践力を高めるとともに、模試分析会を充実させ、生徒の学力状況の把握と、目標大学合格に向けた学力の向上に、学校全体が一体となり取り組んだ。結果として、現役大学進学率 81.4%（昨年度 81.5%）、国公立大学合格者数 16 人（昨年度 26 人）、難関私立大学（早慶上理、GMARCH）合格者数 106 人（昨年度 128 人）と、進学実績は昨年度を下回った。昨年度の卒業生ではあるが東京大学への合格者が 1 名出た。大学入学共通テストなどの入試制度改革には、年度初めから生徒及び保護者向けの説明会を開催するなど迅速な対応をしたが、急な制度変更により振り回された結果となってしまった。
- ③【生活指導】「規律ある自由」の精神を正しく理解させ、学校生活のあらゆる場や機会において自己指導能力の育成を図り、生徒の規範意識や人間性を高めるよう指導を行った。数値目標として掲げた 1 日当たりの遅刻者の割合は 1.2%（昨年度 2.4%）と、昨年より半減した。安全指導、いじめ防止、問題行動防止、犯罪被害防止、自殺予防などの指導を徹底し、安全・安心な生活を送るよう指導の充実を図り、事故や問題行動等の未然防止に努めた。生徒の行動や心理の想定範囲を広げ、事故や問題行動等の未然防止の視点で、予防的指導を更に進めていく必要がある。
- ④【特別活動・部活動】体育祭、文化祭、修学旅行などの学校行事は、生徒がその意義を理解し主体的に考え実践し、充実した活動に結び付いた。部活動は、「文武両道」の精神のもと、部活動加入率 101%を達成し、部活動の活性化や競技力の向上を図るとともに、成就感や自己肯定感を高める指導を行った。東京都教育委員会からの「スポーツ特別強化校（陸上競技）」の指定を受け、陸上競技男子八種競技で全国高校総体第 2 位の結果を残すなど、質の高い活動を行った。特別活動及び部活動の充実により、学校生活の充実と生徒の学校への帰属意識が高まった。
- ⑤【健康・安全】防災、健康、安全、個人情報の保護など、学校の危機管理や安全管理について全教職員で取り組み、事故の無い安全・安心で健康な学校づくりを行うことができた。教育相談委員会を新設し、年間 4 回の委員会での情報共有を行い、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実を図り、学校不適応の未然防止や自殺予防に向けた取組の充実を図った。引き続き、学校事故ゼロを継続していくよう取り組んでいく。
- ⑥【募集・広報活動】最近の私立高校志向の影響を受け、入学者選抜の応募倍率は、推薦に基づく選抜は 3.06 倍、学力検査に基づく選抜は 1.53 倍と、推薦が 4 年連続、学力検査が 3 年連続で前年度を下回った。校内で行った学校説明会の来場者数（1 回あたり）も 798 人と昨年を下回った。本校教育活動の内容や成果を広く周知するため、例年どおりの募集対策から一歩進んだ方策を講じていく必要がある。
- ⑦【学校経営・組織体制】組織的な学校運営を進め、諸課題の解決を図った。学校の特色化を更に進めるよう、これまでの教育の内容や成果を検証し、更なる教育活動の充実・発展に向けた取組を進めることができた。

(3) 「今年度の数値目標」の実績

[]内は平成30年度実績

- ① 長期休業中の講習講座延べ日数200日以上
188日 [新規目標項目]
- ② 自主学習室平均利用人数(1日当たり)20人以上
15.5人 [15.9人]
- ③ 大学入試センター試験得点率70%以上の人数150人以上
122人 [141人]
- ④ 国公立大学合格者数30人以上
16人 [26人]
- ⑤ 難関私立大学(早慶上理、GMARCH)合格者数150人以上
106人 [128人]
- ⑥ 現役大学進学率90%以上
81.4% [81.5%]
- ⑦ 遅刻者の全生徒に対する割合(1日当たり)2%以内
1.2% [2.4%]
- ⑧ 1年生部活動加入率100%以上
101% [100%]
- ⑨ 関東大会レベル以上出場部活動5部以上
5部 [新規目標項目]
- ⑩ 図書館の年間貸し出し冊数5,000冊以上
4,129冊 [4,222冊]
- ⑪ ホームページ年間更新回数100回以上
120回 [80回]
- ⑫ 学校説明会の来場者数(1回あたり)1,200人以上
798人 [1,000人]
- ⑬ 入学者選抜応募倍率(学力検査)2.0倍以上
1.53倍 [新規目標項目:1.69倍]

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 学習指導

新学習指導要領や大学入学共通テストに対応した授業内容や授業方法を工夫し、進学に向けた学力の向上を図る学習指導を一層充実させる。教科主任会及び教科会を定期的に開催し、教科内での指導内容や指導方法の共有化を図るとともに、教科間の連携を深め組織的な指導体制を構築し、意図的・計画的に学習指導を進めていく。自主学習室の利用拡大を図るなど、授業時間以外での生徒の主体的な学習を推進する。

(2) 進路指導

「進学指導研究校」としての取組を継続し、国公立大学や難関私立大学への現役合格者数の増加など、進学実績の向上を目指す。国公立及び難関私大の合格者数が卒業生の半数となる180名という数を引き続きの数値目標とし、文京高校のスタンダードとして定着させる。年間2回の進路研修会を年間計画の中に新たに位置付け、模試分析等による生徒の学力診断結果を教科内で検証し、進路目標実現に向けた指導の改善・充実に結び付けていく。大学入

学共通テストなどの入試制度改革に迅速に対応する。

(3) 生活指導

引き続き、学校生活のあらゆる場や機会において自己指導能力の育成を図り、生徒の規範意識や人間性を高める。文京生であることへの自覚と誇りをもたせ、自律的な態度を育成していく。近年、高校生や社会において発生している事故や事件等の情報を的確にとらえ、生徒の行動や心理に対する想定範囲を広げ、事故や問題行動等の未然防止の視点で、予防的指導を更に進めていく。

(4) 特別活動・部活動

「至誠一貫」の校訓のもと、学習面だけでなく、特別活動や部活動もひたすらに実践する生徒を育成する。勉強と部活動を両立させるためにも、部活動に関する活動方針を遵守し、効率的・効果的な部活動を実践する。生徒が主体的に取り組み、事故無く、成就感や自己肯定感を得られるような指導を進めていく。開催が延期となった東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、オリンピック・パラリンピック教育を継続して進める。

(5) 健康・安全

新型コロナウイルス感染症対策への対応を進め、生徒の命や健康を守り、安全・安心を最優先とする教育活動を行う。学校不適應や中途退学の未然防止及び自殺予防に対する指導や対策を進め、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制を充実させ、生徒個々の状況把握と一人一人に応じたきめ細かい指導を進めていく。防災教育や安全指導を徹底し、災害に対する指導や事故の未然防止を図る。

(6) 募集・広報活動

入学者選抜の応募倍率向上を目標とし、募集・広報活動の充実・改善を図る。例年進めていた募集対策の内容を見直し、中学校への訪問や出前授業を行うなど、積極的な情報発信を組織的に行っていく。次年度開催の創立 80 周年記念事業の成功を目指し、組織的・計画的に準備を進める。

(7) 学校経営・組織体制

東京都教育委員会からの指定や支援を受け、教育活動の充実・発展に取り組むとともに、法令・規則等に基づく組織的な学校運営を更に進め、引き続き諸課題の解決を図っていく。